

令和4年度

人資作品集



- *「わたしのふるさと」作文・絵画
- *中学生広場「私の思い 2022」作文
- *「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」 (家族ふれあいサンデー推進運動) 絵画・ポスター



彦根市青少年育成市民会議
彦根市教育委員会

ごあいさつ

彦根市青少年育成市民会議 会 長 吉田 徳一郎

平素は、青少年の健全育成に格別のご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

本年、令和4年(2022年)も、新型コロナウイルス感染症の収束とはならず、3年目となりました。I 00年前の感染症スペイン風邪の終息は3年かかったということです。今しばらくの我慢が必要なのかもしれません。子どもや若者に対しても、この3年間は行動などが制限され、学校生活においては、様々な感染防止対策をとる中で友達との会話が減少してしまったのではないでしょうか。いろいろなイベントも中止となって、子どもたちの体験不足が気になるところです。また、家庭や屋内での生活時間が多くなるところも、身体や運動能力の発達に不安を感じます。一人で過ごす時間の増加も、スマホやタブレットのより良い活用と利用が求められます。

そのような中ですが、青少年育成市民会議の「家族のふれあい」や「ふるさと」をテーマにした作文・絵画・ポスターの作品の募集には、例年の通り多くの応募をいただきました。

毎年のこの応募にお応えしてくださいます小学校・中学校様と各校の募集作品の作成 指導にご尽力・ご協力いただきます先生の皆様に、心より御礼申し上げます。

私たち人間は「見て聞いて体験して自ら育つ力」を備え生まれてきます。子どもたちも同様です。見て聞いて体験して自ら育っています。作文を読ませていただきますと自分の体験から新しいことを発見し、そして、それについての考えを綴った作文も多く読ませていただきました。

作文の審査をお願いしました先生から、ある子の作文では、「その子の取り上げた題材の『匂い』まで感じられる上手な描写の作文だ。」という評価もございました。絵画におきましては、審査の先生より、応募のその子の学年齢らしい素直な色や風景や体験のふるさと絵画だという言葉もございました。

是非、この作品集でお感じいただければと思います。

子どもや若者たち青少年の健やかな成長を願い、今後もこの事業は継承されていきます。引き続きのご理解とご協力をお願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

はじめに

彦根市長 和田 裕行

彦根市にある近江高等学校が春・夏の甲子園で見せてくれた若者が躍動する姿は、私たち市民の心を熱くし、明日への活力を与えてくれました。また、我がまち『彦根』の名を全国へと広げてくれました。 I 2月に完成した「プロシードアリーナHIKONE」でも、スポーツに限らず、多くの若者が様々な活動を通して、青春を楽しみ、生きる力を育んでくれることを願っております。未来を担う子どもや若者たちの心豊かに健やかな成長は「まちづくり」において欠かせないものであり、市民すべての願いと言えます。しかしながら、子どもが犠牲となる事件等が後を絶たず、子どもの貧困に関する問題、ヤングケアラーやひきこもりの若者など、withコロナの中、子どもや若者を取り巻く環境は厳しく、もはや、家庭だけ、学校だけでは改善できません。家庭、

本市では、青少年健全育成に向けた取組の一つとして、昭和57年より小・中学生から作文を募集し、発表の機会を設けてきました。今年度で「わたしのふるさと」作文は37回目、中学生広場「私の思い2022」作文は25回目を迎えました。また、「わたしのふるさと」絵画は13回目、「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」(家族ふれあいサンデー推進運動)絵画・ポスターは32回目となり、いずれも多くの学校で取り組んでいただき、大変うれしく思っております。

学校、地域、そして市民の一人ひとりがそれぞれの役割を果たし、市民総ぐるみで青少年健全育

成の運動の輪を広げていく必要があります。

「わたしのふるさと」作文・絵画では、家族とのふれあいや、地域の人々との交流などを通して、子どもたちが自分たちの住む地域のすばらしさに気付き、ふるさとを再発見し、表現するよい機会となっています。また、中学生広場「私の思い2022」作文では、中学生が自らの意思や決意を表現しており、未来に向けてたくましく行動し実践していく姿が思い浮かびます。さらに、「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」絵画・ポスターは、家族の心のふれあいや温かさをテーマにした作品がたくさんあり、家庭の大切さについて改めて考えさせられるものとなっています。

収録しました子どもたちの生き生きとした作品に触れていただき、今後とも、子どもや若者へ のご理解を深めていただきますとともに、青少年健全育成の活動にますますご支援いただきます ようお願いいたします。

最後になりましたが、作文ならびに絵画の指導や審査にご協力いただきました先生方、また、 子どもたちをいつもあたたかく見守り、日々向き合っておられる保護者の皆様、そして地域の皆 様に心からお礼申し上げます。

もくじ

「わたしのふるさと」作文					
特選					頁
まぼろしの「ひこねりんご」のしゅうかく	平田小学校	3年	佐野	碧哉	1
びわ湖ヨット体験に参加して	稲枝西小学校	5年	岡田	悠輝	2
入 選					
びわ湖を守るためにできること	城南小学校	5年	浅尾	友翔	3
私が住む町	城東小学校	6年	北村	彩詠	4
美しい自然と彦根	城東小学校	6年	林 鴠	亜美	5
古の足跡	旭森小学校	6年	乾	让佳	6
中学生広場「私の思い 2022」作文					
特選					頁
感謝の贈り物	西中学校	2年	前川	愛佳	7
努力からのプレゼント	中央中学校	2年	角田	奈巴	8
入 選					
わたしの夢	中央中学校	l 年	押谷	悠希	9
私の家族	南中学校	l 年	川瀬	莉乃	10
私の将来の夢	南中学校	l 年	野瀬	満月	11
ふるさとを応援する力	東中学校	2年	内藤	凜乃	12
誇りある琵琶湖にするために	西中学校	2年	榎本	結香	13
命の尊さ	東中学校	3年	大内	斗翔	14
「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」(家族ふれ	1あいサンデー推	進運動	分絵画	画・ポスク	ター
特選					頁
外でボールあそび	城東小学校	l 年	田部	ひなの	15
家族で夢の世界へ	金城小学校	2年	川瀬	莉心	15
家族で旅行	彦根中学校	2年	相田	紗代	15
入 選					
お父さんと一緒に稲刈りしたよ!	河瀬小学校	2年	茶木	優輝	16
よぞらを見た日	城東小学校	2年	國枝	奈乃葉	16
夏の思い出	河瀬小学校	3年	井上	皐	16
家族のぬくもり	城西小学校	5年	竹下	伊志	17
家族みんなで	西中学校	2年	西村	悠花	17
家族との思い出を大切にしよう	彦根中学校	3年	今井	彩絵	17

「わたしのふるさと」絵画

特選					頁
彦根城と桜	稲枝西小学校	年	柴田	にこ	18
どしんとりっぱな彦根城	河瀬小学校	3年	辻 柞	妥祐	18
緑あふれる荒神山の夏	稲枝西小学校	5年	伊藤	二胡	18
キャッスルロード	西中学校	3年	前川	美音	18
入 選					
わらっていた らかんさま	稲枝西小学校	l 年	岡田	祥真	19
ぼくのふるさと	稲枝東小学校	2年	冨江	奏樹	19
せり川とかもつれっ車	佐和山小学校	3年	小川	千咲	19
我らの街の薬屋さん	鳥居本小学校	4年	飯田	大和	19
彦根の湖岸道路から見る 美しい伊吹山	城西小学校	5年	毛利	友哉	20
私の好きな夏の風景	城東小学校	6年	溝口	心結	20
夏を彩る銀座商店街	中央中学校	l 年	押谷	悠希	20
むちん橋から見た犬上川	県立河瀬中学校	2年	米田	良生有	20
佳作入賞者一覧					21



22

<作品応募状況>

審査員紹介

	参加小学校	参加中学校	応募数
「わたしのふるさと」作文(小学校)	9校		3 編
中学生広場 「私の思い 2022」作文		7校	3 4編
「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」 絵画・ポスター	I 2校	3校	小学校 70 点 中学校 19 点 計 8 9 点
「わたしのふるさと」絵画	I 3校	4校	小学校 69 点 中学校 13 点 計 8 2 点

わたしのふるさと 作文

<特 選> まぼろしの「ひこねりんご」のしゅうかく

彦根市立平田小学校 3年 佐野 碧哉

「まぼろしのりんごってどんなりんご?」 小学校でくばられたおたよりを見て思いました。

ぼくは、お母さんといっしょにせり川の横にあるりんご園に行きました。朝からとてもあつくて、 せみが大きな音でないていました。その場所に は、高さが同じくらいのりんごの木がたくさんな

らんでいました。

ぼくは、まぼろしのりんごと聞いていつも食べているりんごとどんなちがいがあるのか知りたいなと思っていました。大きさがスーパーで売っているりんごよりもすごく小さいだけでなく、形もちがう事がわかりました。スーパーのりんごはたてに大きくて、ひこねりんごは横に少し大きい形でした。色もスーパーのりんごは赤色だけど、ひこねりんごは黄色でした。

なぜ、まぼろしなのかというと、昔はひこねりんごはよく知られていて、食べるよりもおぼんにおそなえするくだものだったけど全ぶぜつめつしてしまったので、ふっかつさせた事や今はあまりさいばいされていないとてもきちょうなりんごだからとわかりました。

高い所になっているりんごは、りんご園をせわ しているおじさんがえだをさげてくれたので、ぼ くでもたくさんしゅうかくする事ができました。お じさんが、

「いっぱいとれたか?」

と言いながら、ぼくのふくろにりんごを入れてく れたのがうれしかったです。

ぼくは、ぼうしがぬれるぐらいあせをかき、とて も楽しかったけどつかれました。毎年、せわをし てくれているおじさんは、あつい日もさむい日もせわをしていてすごいなと思いました。

ぼくは、このしゅうかくの楽しさとひこねりんご をたくさんの人に知ってもらいたいと思いました。 だから、しゅうかくしたりんごをとなりや前のおば ちゃんの家へおすそ分けに行き、りんごがりをし てきた事や、ひこねりんごはまぼろしのりんごな んだよと話しました。

「めずらしいりんごをたくさんありがとう。」 と言っててもらえてうれしかったです。

しゅうかくしたりんごは、リンゴジャムとリンゴシロップにしました。ジャムはヨーグルトにのせて食べたらさいこうにおいしいです。シロップは大きなビンにたくさんのりんごを入れて氷ざとうがゆっくりとけていくので毎日ビンをゆらしてまぜるのがぼくの仕事になりました。

ぼくは、小さくてこんなにおいしいひこねりん ごの事をしゅうかくにさんかして知りました。まだ まだ、ぼくの知らない事がいっぱいあるんだなと 思いました。

これからも、ぼくの住んでいる大すきなひこね の事をたくさん知りたいな、もっと見つけたいな と思いました。

【ひとこと】 私たちの住んでいる彦根にはたくさんの魅力がありますが、その中から「ひこねりんご」を題材にしたところが素敵だと感じました。実際に収穫したり料理したりするなど、こころ温まる様々な体験をしながら、「ひこねりんご」が筆者にとって特別な存在になっていったことがうかがえます。「かかわれば愛しさが募る」という言葉がありますが、筆者がりんごとのかかわりを通してふるさとへの愛着を深める様子がひしひしと伝わる作文となりました。

<特 選> びわ湖ヨット体験に参加して

彦根市立稲枝西小学校 5年 岡田 悠輝

「多景島は彦根市なんだ。」地図を見て初めて知ったのは去年のことでした。大型ヨットに乗って多景島に行くイベントがあることを5才の時におじいちゃんから聞いていましたが、台風やコロナで毎年行くことが出来ませんでした。今年こそ絶対に参加したかったので、その日が来るのが楽しみでした。

7月23日、ついにその日が来ました。天候は くもりで時々雨がふっていて心配でしたが、予 定通り実施されると聞き、松原港へ車でむかい ました。

いよいよ出航の時、風はあまりありませんでした。ぼく達が乗るヨットは、風がなくても進むようにエンジンが付いているそうなので安心です。 ぼくは、救命胴衣をつけてヨットの舳先にすわりました。びわ湖は濃い緑色をしていて、にごっているように見えました。大きな波がくるたびにヨットははげしくゆれて水しぶきが体にかかりました。1時間半ほどゆられてようやく多景島に着きました。多景島は横に長い島でひょっこりびわ湖に現れたという感じでした。こんなにはなれていても、ぼくの家と同じ彦根市なんだと思うと、少し不思議に思えました。

多景島に近づくと島付近の水はきれいに澄んでいました。上陸するとオニユリが何本も咲き、ヨシや木々が生いしげり、セミの鳴き声が聞こえました。一番おどろいたのは岩場で発見した白くて丸い物でした。それはカワウの卵のからでした。ヒナがかえって巣から落としたからもありますが、あきらかに中身が出ている卵もあり、ここがカワウの生息地であることを知りました。こんな小さな島だけれど、いろいろな生き物がいることがすごいと思いました。

島の東側には以前「南無妙法蓮華経」と書かれた岩があったそうです。これは、彦根のお殿様が彦根の繁栄を願って江戸時代に建てたものです。しかし、平成30年に台風で岩の一部がくずれてしまい、今は「経」という一文字しか残っていません。殿様が毎日ながめていた岩がなくなってしまってとても残念に思えます。

島から彦根の町を見てみると、小さくて家などはよく分かりませんでした。でも、島からはなれていくにつれて荒神山がよく分かるようになりました。びわ湖から見た荒神山は横に長く見え、いつもとちがう形に見えました。ふり返って見ると、島はどんどん小さくなっていきました。多景島は、大きな風や波にさらされながらもたくましく湖に立っているんだと思いました。

ふだんは自分の住んでいるところを意識することはほとんどありませんが、今回のヨット体験をとおして、こんなにも近くにびわ湖があり、豊かな自然をいっぱい見せてくれるふるさとのよさに感謝しました。



【ひとこと】

ようやく大型ヨットに乗って多景島に行けるというわくわく感が、筆者の感性を研ぎ澄ませたのでしょう。多景島やびわ湖の豊かな自然の描写は見事で、読み手を惹きつけます。読んでいくうちに、ヨットに乗って行ってみたいという気持ちにさせます。また、多景島だけでなく、びわ湖から見た彦根の町の視点も新鮮でした。体験を通して、筆者はふるさとへの思いを深めています。体験することの大切さを改めて感じさせてくれる作文です。

<入 選> びわ湖を守るためにできること

彦根市立城南小学校 5年 浅尾 友翔

ぼくは今年、学習船「うみのこ」に乗ってフローティングスクールに参加しました。フローティングスクールでは、竹生島や多景島のてん望をしたり、びわ湖学習をしたり、みんなで昼ご飯を食べたりしました。初めての航海はとても楽しかったし、今まで知らなかったびわ湖の事について知ることができて、とても良い経験になりました。

特に、びわ湖学習では、プランクトンの観察や 水のとうし度調べをして、とてもおどろいた事があ りました。

プランクトンの観察では、びわ湖にどんなプランクトンがいるのかをけんび鏡で観察しました。 ぼくは5種類くらいが I ぴきずつぐらいいると思っていました。しかし、けんび鏡を見てみると、何種類いるのかや何ひきいるのかが分からないほどたくさんいて、びっくりしました。また、プランクトンにはたくさんの種類があり、形がちがい、それぞれ特ちょうがあると分かりました。

水のとうし度調べでは、4種類の水でどれだけ 先が見えるかを調べました。その4種類の水とは、 水道水と北湖と南湖の水と40年前のびわ湖の 水の4種類でした。調べてみたら、40年前の水が 一番よごれていて、今のびわ湖の水は南より北の 方がきれいでした。一番きれいだったのは水道水 でした。ぼくは今まで、昔より今のびわ湖の水の 方がよごれていると思っていました。なぜなら、今 の方が工場がたくさんあるし、人口が増えたから です。しかし、調べた結果から、予想と真ぎゃくで 今より40年前のびわ湖の水の方がよごれていた と分かり、びっくりしました。

ぼくは、その事がとても不思議に思ったので、 何があったのか調べてみました。40年前、滋賀県 各地の人々はリンをふくむ合成せんざいを使って いて、そのはい水がびわ湖に直接流れこんでいました。また、工場がたくさん建てられて、工場はい水も大量に流れこんでいたために、びわ湖のかん境が悪くなったと分かりました。でも、滋賀県各地の人々は、このままではびわ湖の水がよりきたなくなると考え、こな石けんを使うようにして生活の仕方を変えました。その努力によって、びわ湖の水はきれいになり、かん境が良くなったという事でした。

現在のびわ湖の水はあまりきれいではないし、 岸にたくさんゴミが落ちているので、ぼくたちはび わ湖の水や周辺をきれいにするために、昔の人 のようにみんなで協力し合って努力する必要が あると思います。

ぼくは学校の授業で、マザーレイクゴールズを 知りました。それは、びわ湖のかん境を良くしてそれを守り続けるための13個の目標のことです。 ぼくはびわ湖のかん境を少しでも良くするために、 何ができるか考えました。それはマザーレイクゴールズの4番です。4番の「水辺も湖底も美しく」の目標のために、ゴミのポイすてをしない、ゴミ拾い、台所で油などのよごれを流さずにふきとるなどができると思います。自分でもできる事を続けて、びわ湖を守っていきたいです。



【ひとこと】

筆者がフローティングスクールに参加し、大変興味深く観察実験を行った様子が見えてくる作文です。びわ湖についての学びは、フローティングスクールに参加している間だけにとどまらず、その後も調べ、自分なりの考えをつくり上げているところが素晴らしいと感じました。びわ湖をきれいにするためには、自分自身には何ができるのか、身近なことから始めていこうとする前向きな気持ちが表れています。是非実践してください。

<入選> 私が住む町

私が彦根で自慢に思う伝統行事は、「マーチングバンド」だ。

このマーチングは、城東小学校6年生だけで演奏し、金管と鼓隊やその他の人で構成されている。ラ・プンテと校歌を演奏しながら行進するのは至難の技であり、演奏・列をそろえる・タイミングなど、これらを同時にするにはたくさんの練習が必要だ。私のお父さんも城東小学校に通っていたので聞くと、もっともこの時は人数が多く、選ばれた人しかできなかったそうだ。それより、お父さんの時代から私が演奏するまでずっと受けつがれてきたものだと知り、責任を感じた。さらに、一つつの楽器にそれぞれ先代の人の想い・責任感がつまっているんだと改めて思った。

私は金管楽器のトロンボーン担当なので、口を 上手く使って音を出すのが難しかった。初めに受 けついだころは、「やればできるだろう」という軽 い気持ちだった。しかし、初めてやってみると低い 音は出せたのだが、少し音を高くすると教えても らった通りにやろうとしても、低くしか出せなかっ た。その中でみんなが高い音を少しずつ出せるよ うになると焦りを感じた。何回かの練習をくり返し て、ようやく出るようになったときはとても嬉しかっ たのだが、それまでは下校中も「私はトロンボー ンに向いてないのかも・・・」とあきらめかけていた。 けど、前の6年生が自分の経験をもとに必死で 教えてくれたり、はげましてくれたおかげで、コツ がつかめた。だから、私も練習や努力を積み重ね て上達できるようにしたいと思う。私は、みんなで 協力して真面目に一つのものをつくりあげるのが 好きだ。みんなでやるから苦労するし、問題も起こ る。でも、この伝統行事を頑張ってやり切れたとき には、みんなも嬉しいし、だれかを感動させること

彦根市立城東小学校 6年 北村 彩詠

ができる。私はそのしゅん間が好きなので、今も 伝統を守るため練習している。

彦根には、この伝統行事の他にも私が好きな ものがたくさんある。

Iつ目は、自然だ。彦根には荒神山や様々な川がある。のびのびと自由にたたずむ姿や色んな生物がたくさん生育する様子を見ると、彦根の町の空気がキレイで、美味しいのに納得がいく。

2つ目は、人の優しさだ。私のおとなりさんは、 余ったお惣菜などを分けてくれる。学校の登校時 にはスクールガードさんが見守ってくれるし、道ば たで人に出会ったときは笑顔であいさつしてくれ る。

このように、彦根には豊かな自然や人の優しさ・伝統行事など素晴らしいものがたくさんある。 私はこの素晴らしいもの達が無くなってほしくない。だからこそ、できることを考えて行動を起こせるようになりたい。



【かとこと】

学校でのマーチングバンドを、伝統行事として筆者が誇りに思っている様子がひしひしと伝わってきます。 伝統を守るために、マーチングバンドの一員として楽器の演奏を上達しようと一生懸命に取り組む姿に頼もしさを感じます。仲間とともに作り上げていく経験の中でふるさとのよさを見つめることができましたね。筆者が願うように、彦根にあるたくさんの素晴らしいものをなくさないようにこれからも行動してください。

<入 選> 美しい自然と彦根

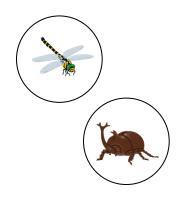
私の身のまわりには美しい彦根の自然がたくさんあります。山もあるし、川もあります。私は山も川も大好きです。なぜなら、山は草木のすがすがしいにおいやちょうちょやバッタ、ハンミョウ、ウグイスなど数えきれないほどの生き物がたくさんいるからです。川は水の流れていく音や魚がはねる音はもちろん、ヤゴのぬけがらやドンコ、アユ、ウグイ、ハス、エビなどたくさんの生き物を観察できるからです。

このように、彦根にはたくさんの自然があり、た くさんの生き物がいますが、本来いてもいいはず の生き物が私の身のまわりには少ないように感じ ます。私が特にそう感じた生き物はクワガタです。 私の父の時代は、朝、ラジオ体そうが終わったら 友達ときそいあってつかまえにいって、オオクワガ タやミヤマクワガタをつかまえにいったといいます。 しかし、今私が父とクワガタを探しにいっても頭だ けのクワガタが1匹、2匹おちているだけで、私は コクワガタしか見つけたことがありません。私はな ぜクワガタが少ないのか不思議に思いました。そ れを父にたずねると「じゅ液のでている木が少な いからじゃないか。」と言いました。昔はじゅ液の においが山に入るとぷんぷんして特にこいにおい の木だとこん虫がたくさん集まっていたそうです。 しかし、今はじゅ液のでる木が限られていてなか なかありません。なぜじゅ液のでる木が少ないの か理由を考えました。原因はいろいろあるかもし れませんが、人の手がたくさんはいったことが原 因なのではないかと私は考えます。私の近くの山 は草がかられ、公園もあり、トイレもあり、道も整備 されています。これだけでかなり人の手がはいっ ているように思います。草をかることでバッタはえ さを失い、他の虫たちもかくれがを失います。道

彦根市立城東小学校 6年 林 亜美

路が整備されると木は自由に根をはれなくなります。このように、人にとっては良いことも自然にとって良いことかは分かりません。だから、自然と人の関係性が大切だなと思います。私の家の近くのけやき道はこの関係がうまくたもたれていると思います。道の整備もしてあり、まわりに植物も植えてあるけれど、けやき道にはセミがたくさんいてトンボもいます。このような関係が私の理想の関係です。自然と人が自由にすごせる、それが一番だと思います。

このような自然との関係をつくるのはとても難しいと思います。人も自然も自由な山をつくるには、山とその山にすむ生き物の関係や人の手をあまり加えずに人が楽しめる方法などさまざまなことを配りょしなければなりません。しかし、このような関係をきずくことができたら、彦根には美しい自然がいつまでものこります。これから先、100年後にも彦根の自然がのこるようにルールを守って自然と関わっていきたいです。



【ひとこと】

確かにひと昔に比べクワガタは少なくなっていますね。筆者はそのことを疑問に思い、原因を自分なりに考えていきました。どのような場所を自分は望んでいるのか、自然と人との関係はどうあるべきか。物事を真摯に見つめ考える筆者の姿勢が光っています。においや音などの五感を使った表現も優れていました。かつてのように、豊かな自然が彦根によみがえるよう努力をしていきたいと読み手に感じさせる作文となりました。

<入選> 古の足跡

私が住んでいる旭森地区には、長い歴史があります。その中でも私の印象に残っている場所を 2つ紹介します。

Ⅰつ目は、私の小学校の校歌に出てくる芹川です。芹川は、奈良時代末期に作られた「万葉集」にも詠まれています。私は、和歌に興味があったので、調べてみると、

『淡海道の 鳥籠の山なる 不知哉川

日のこのごろは 恋つつもあらむ』 という歌で、斉明天皇が詠んだと考えられています。歌碑が彦根駅東口にあるそうです。歌碑の中では、今の「芹川」が「不知哉川」と書かれており、古くから芹川が流れていることが分かりました。現在、川がきれいで、釣りをしている人がいることから、今も変わらず、地域の人に愛されていることを感じました。そして、私も幼い頃から、芹川にかかっている橋を通学して、今年で9年目になります。自分も6年生になり、来年3月の卒業以降は、橋を歩いて渡ることは、少なくなると思います。そう思うと、名残惜しい気持ちでいっぱいです。9年間、歩きの時にお世話になったこの橋といつも眺めてきた芹川は、私にとって思い出の場所の一つです。

2つ目は、芹川の前にある私が通っている小学校です。思っていた以上に歴史があり、以前、学校で、瓦を見た時に明治と表記されていました。ちなみに、本年で創立 I 50 周年になります。私の学校では、マーチングバンドがあります。マーチングバンドは、6年生だけが毎年やっています。それから、私は、ついに今年、憧れていたトランペットを吹くことになりました。マーチングバンドは、前の6年生から楽器と想いを引き継いでいる伝統行事です。私は、練習している時にそれを実感する

彦根市立旭森小学校 6年 乾 礼佳

瞬間がありました。それは、トランペットのケースのすき間をさわっていたら、奥から今までの6年生の楽譜が出てきた時です。 I 枚だけではなく、複数枚ありました。それを見た時、たくさんの人がトランペットを吹いてきたという歴史を目の当たりにし、次の6年生にバトンを渡すという責任の重さを改めて自覚しました。マーチングバンドを家の人に初めて見てもらうのは運動会になるので、運動会に向けて練習をがんばっています。本番では、みんなで音を揃えて、見ている人の胸を打つような美しい音色を奏でたいです。

最後に、私の大好きな場所、芹川は自然に恵まれ、昔の生活が根強く残る、生活に欠かせない場所です。また、学校は勉強だけではなく、地域の人との交流や歴史を学ぶ場所です。これらは、地域の人の生活と深く関わってきて、昔から続く生活や行事が足跡となって、今も変わらずに残っている場所だということに気づきました。だから、私は、これからもこの旭森地区が未来に残る足跡になり、地域の人に大事にされる場所であってほしいと願います。私も、自分が住んでいる町を大切に、忘れないようにしたいです。



【ひとこと】

題名が印象的で、興味深く読み進めました。題名にもあるように、過去から現在へのつながりに視点をおいて書いているところはさすが6年生と感じました。地域にある芹川、学校のマーチングバンド、どちらも昔から引き継がれていることへの感動が伝わってきます。書くことは考えること。書くことによって、ふるさとへの思いを深めることができましたね。先人たちの残した足跡を忘れることなく、地域や学校の伝統を大事にしていってください。

中学生広場「私の思い 2022」作文

<特 選> 感謝の贈り物

「ありがとう」

感謝の思いを伝えるこの言葉。言った側も言われた側も幸せな気持ちになれる、魔法のような一言です。

しかし最近、この「ありがとう」を相手にしっかりと伝えられている人が少ないように思います。スマホをさわりながら、

「あー、うん。どうもー。」

などと、適当に流してしまっていないでしょうか。 何か自分のために力をかしてくれた人に対して、 感謝を伝えられているでしょうか。

私が、「ありがとう」について、改めて考えるきっかけになったのは、学校での道徳の授業です。そのお話では、主人公の女の子が、自分を支えてくれている周りの人の優しさに気づき、そのことに感謝する姿が描かれていました。私はその学習で、「私はいつもどうだっただろう?」

と自分を振り返ってみました。

私は祖父母と一緒に住んでいて、仕事で両親の帰りがおそいときなどは、夜ごはんの準備や習い事の送迎をしてもらっています。しかし、「毎回お礼を言っているか?」とたずねられたら、私の答えはNOです。一回一回面と向かって「ありがとう」を言うのはなんだか照れるし、そもそもしてもらうことが「当たり前」だと思ってしまっていました。

私はこの道徳の授業で自分を振り返ってみて、 「周りの人の優しさ・思いやり」にどれだけ助けられていたか、気づくことができました。

みなさんは、自分の感謝の気持ちを相手に届けられていますか。自分の心の中だけにしまいこんでしまっていたり、相手のその優しさを「当たり前のことだ」と思っていたりしませんか。今一度、身近な人が自分にどう接してくれているか、思い出してみてください。そして普段、自分はそれに応えられているか、振り返ってみてほしいと思います。

彦根市立西中学校 2年 前川 愛佳

もし、「ありがとう」を普段伝えられていないのであれば、「これからは・・・」と、自分を少しずつでも変えていきたいです。

また、周りの人たちだけではなく、自分自身にも「ありがとう」という気持ちをもつことができるといいなと思います。

昨今、新型コロナウイルスが猛威を振るい、世界中でたくさんの人がつらく、苦しい思いをされています。コロナの影響で活動に制限がかかり、なかなか思うようにいかずにもどかしくなることもあったと思います。そんなつらい状況であっても、自分は、生きています。苦しくて、投げ出したくなることもあるかもしれないけれど。まずは、ここに生きている自分に、

「つらい状況だけれど、毎日頑張って生きている 私、すごい! いつもありがとう。」

と声をかけるような気持ちで、一日一日を明るく 過ごしていきたいなと思います。

周りで支えてくれている人にも、自分自身にも 伝えたいです。「いつも私を見守ってくれてありが とう」「優しくしてくれてありがとう」「今日一日も 生きている自分、ありがとう」と。だれかの優しさ・ 思いやりは、身のまわりにあふれています。その優 しさに、自分は「ありがとう」と感謝の心を贈るこ とができると素敵だなぁと思います。

「ありがとう」という、たった一言だけれど、みんなが幸せになれる、感謝の贈り物。一人一人が少しずつ変化して、「ありがとう」のあふれる、あたたかい社会になっていくといいなと思います。

【ひとこと】 「自分の感謝の気持ちを相手に届けられていますか」という筆者の問いに、「はい」と言えるかというと自信がありません。心の中では感謝していても、それを言葉に出して相手に伝えることって難しいですね。「ありがとう」というたった一言は、「感謝の贈り物」。筆者のように相手に届けないといけませんね。

<特選> 努力からのプレゼント

彦根市立中央中学校 2年 角田 奈巴

「苦しさの中、このオリンピックで何を見たんですか。」

「そうですね・・・・・・努力って報われないな_{あっ}て 思いました。」

これは、羽生結弦選手の演技終了後のインタ ビューの一部である。私はこの言葉が、心に刺さった。努力は報われないこともあるんだ・・・・・。

自分で言うのも何だが、私は何事にも一生懸命になるタイプの人間だ。しかし、そのせいで何か上手くいかなかったりすると、何もかもが嫌になってしまう。親の前では何度泣いたことか。それでもがんばれたのは、親の支えはもちろんのこと、ここでもうひと踏ん張り頑張れば上手くいくかもしれないと考えたからだ。正しく「努力は報われる。」と思っていた。

努力はすればするほど、後からとんでもなく良いことが起こると私は考えていた。小学校6年生の頃、書写の授業で自分の座右の銘を書いた。 そのときに、「努力は自分を裏切らない。」と書いたほどだ。

しかし、羽生選手のこの一言を聞いた瞬間に、「努力は時には自分を裏切る。」に変わった。ならば、初めから苦しい思いをしてまで努力しなくてもよいのではないか。私はそうは思わなかった。たとえ、努力は報われなかったとしても、努力してきた自分は大きく成長できるはずだ。こう考えたのだ。正しく、小学校の運動会練習のたびに担任の先生から散々言われてきた「結果よりも過程が大事。」にふさわしいだろう。

私は、羽生選手の一言を初めはマイナスにとらえた。けれども、前述のように、努力が報われるか報われないかより、自分自身が変われたかが大切なのではないか。後々、そう考えた。実際に、羽生選手もインタビューにこう答えていた。

「いや、もう一生懸命、頑張りました。正直これ以上ないくらい頑張ったと思います。報われない努力だったかもしれないですけど。でも、一生懸命、頑張りました。」

この発言には、「頑張る」という言葉が3回も使われている。このことから、羽生選手がいかに努力したかが伝わってくる。また、インタビューにこう答えていた羽生選手が、私にはとても輝かしく見えた。努力は報われなくても、自分を輝かせてくれる力があるのだと感じた。努力は、報われなくても自分自身が成長できるのに加え、自分を輝かせてくれるのだ。

このように、私は羽生選手の一言から考えがガ ラリと変わった。しかし、その一言はこれからの私 をも助けてくれる一言だった。この一言から、私は、 努力は報われるか報われないかが大切なのでは なく、その努力で自分自身が成長できたのか、輝 くことができたのかが大切だということを、考える ことができた。つまり、努力から何かプレゼントを ゲットできるのかが大切だ。たとえ、自分が望ん でいたプレゼントではなくても、何かしらのものが ゲットできることが大切なのだ。これからの長い 人生、山あり谷ありで、努力してもなかなか良い 結果が出ないこともたくさんあるだろう。悔しくて、 泣いたり落ち込んだりすることもたくさんあるだろ う。それでも私は、そこで自分への評価を下げた くはない。しっかり、自分のことを認めてあげたい。 そのためには、それ相応の努力が必要なのだ。そ して、その努力の先には何かしらのプレゼントが 待っているかもしれない。

自分を自分で認めるため、自分を輝かせるため、私は努力をおこたりたくない。

【ひとこと】

北京オリンピックでの羽生結弦選手の言葉「努力は報われない」は一見否定的な悲観的な言葉に聞こえます。でも決してそういう意味で発せられた言葉ではなく、自分の頑張りを認め、輝かせる言葉だということに筆者は気づき、胸を打たれます。努力が自分を輝かせるという考え方は前向きですてきですね。

<入 選> わたしの夢

わたしの将来の夢は薬剤師になることです。わ たしが薬剤師になることを目指すようになったの は、小学 | 年生のころに薬のアレルギーがあるこ とが分かったのがきっかけです。薬を内服したり、 注射したりすることによって皮膚に発疹が出るこ とをアレルギー性薬疹といいます。アレルギー性 薬疹には、様々な種類の薬疹がありますが、その 中でも、わたしの症状としては、固定薬疹と言わ れるものになります。固定薬疹とは、その名前のと おり固定した部位に薬疹が出るのが特徴で、わ たしの場合は、ある薬を飲むと、右足の太もも部 分に4センチほどの丸い形をした赤紫色の青た んのようなものが現れます。その青たんのようなも のは、日に日にうすくなっていき、2週間ほどで消 えますが、また同じある薬を飲むと、また同じ太も も部分に前より少し大きくなった青たんのような ものが現れます。そのある薬とは、痛み止めのお 薬や抗菌薬ですが、痛み止めのお薬や抗菌薬に は様々な種類があり、その中でも服用すると症状 が出るものと出ないものがあります。わたしは病 院で、服用することによって症状の出る薬を調べ てもらいましたが、お医者様から、今症状が出て いない薬でも、今後服用することによって症状が 出てしまう薬もあるということを聞いているので、 本当に何度も服用して症状が出ないと分かって いる薬以外は、飲まないように気をつけています。

このようなことから、わたしは自分のアレルギーについて、深く関心を持つようになり、薬についてもっとくわしく知りたいと思うようになりました。病院の検査では、全ての薬を検査したわけではなく、数種類の薬しか検査ができなかったので、将来、薬学部に入って、他に同じような効果のある痛み止めのお薬や抗菌薬はどれくらい種類があるのかを知ることによって、他の自分に合ったお薬を見つけたいです。

また、自分のような薬のアレルギーを持っている人のためにもたくさんの薬について学び、間違った薬を処方せず、正しい薬の説明ができるよう

彦根市立中央中学校 |年 押谷 悠希

な薬剤師を目指したいと思います。

そして、現在、ロシアによる侵攻によって各国に ウクライナの避難民の方が避難されており、日本 にも何人かの方が避難されてきています。そのよ うな方々は、慣れない環境、慣れない生活に大変 苦労されているかと思われます。一番の壁は、言 葉の壁だと思います。避難民の方が病気になって 薬を買いに来たとしても、言葉が通じないと症状 などを伝えることができません。このようなことは、 ウクライナの方に限らず、これから他国でも戦争 によって日本へ避難されてくる方がいらっしゃる かもしれません。そのような時のために、世界共 通言語の英語はもちろん、できるだけたくさんの 言語を大学に行って学び、外国の方へも安心し て薬の処方や説明ができるような薬剤師になり たいです。

最後に、わたしが思う薬剤師とは、病気で薬を 求めてきた人に、ただ単に薬を処方するだけでは なく、薬を服用することの不安や心配を取り除け るよう、相手のお話をきちんと聞いて理解してあ げることが大切だと思います。わたしは、外国の 方やお年寄りの方、薬を求めてこられる全ての方 の、心のよりどころになれるような薬剤師を目指 したいです。



【ひとこと】

薬に対するアレルギーを持つ筆者だからこそ、薬剤師には適切な処方と正しい説明ができることが大切だと実感できるのでしょう。ウクライナの人々にも思いを寄せる筆者なら、薬を服用する不安を取り除くため相手のお話も誠実に聞くことができるでしょう。「心のよりどころ」になる薬剤師さんに心も治療してもらいたいですね。

<入選> 私の家族

彦根市立南中学校 1年 川瀬 莉乃

私は、お父さん、お母さん、弟の4人家族です。 私は、つらい時や苦しい時に一緒に寄りそってく れたり、アドバイスをしてくれる家族のことが大好 きです。

お父さんは気が短いので、ちょっとしたことですぐに怒ります。でも、おもしろいことをしてくれたり、勉強を熱心に教えてくれたりするなどいいところもたくさんあります。また、お父さんはいろんなことを知っているので、私の知らないことを細かく説明してくれます。他にも、お出かけに連れていってくれたり、一緒にキャッチボールやサッカーをしてくれます。気が短いという短所はありますが、いつも優しく、時には叱ってくれる私の自慢の父です。

お母さんは、毎日おいしいご飯を作ってくれたり、勉強を教えてくれます。仕事があり、つかれていると思うのですが、いつも家事をていねいにこなしているお母さんは、とてもすごいなと思います。私は、家事をすべてお母さんに任せている日があるので、洗濯物を干すことや食器洗いなどは、自分から手伝えるように意識していこうと思います。私は、お母さんに言われたことをすぐにやらない時があります。こういう時は、お母さんはすごく怒り、私もイライラしてしまうことが何度もあります。なので、言われたことは後回しにせず、すぐに行うようにしていき、人に言われる前に自分から行動することを今後の目標にして、がんばって取り組んでいこうと思います。お母さんは、お金の使い方や料理などさまざまなことを教えてくれます。

また、学校や塾の宿題で分からない問題があれば、優しくていねいに教えてくれるので、とても助かります。毎日ご飯を作ってくれたり、勉強を教えてくれるお母さんに感謝したいです。

弟は、私が勉強をしていると、すぐに邪魔をしてくるやんちゃな小学2年生です。いつも私と同じくらいの量のご飯を食べるので、小学3年生なみの体格をしています。弟は、トミカで遊ぶのが大好きで、リビングや私の部屋までトミカを並べます。並べたトミカを少しでも動かしたり、片づけたりする

と、泣いて怒り勉強の邪魔ばかりするので、とても困っています。でも、たまにはお菓子を分けてくれたり、キャッチボールを一緒にやってくれたりするかわいい弟です。お父さんと弟は車が好きなので、よく2人で車の写真や動画を見ています。車に夢中になっている時は、とても静かになりますが、だんだんあきてくると、キャッチボールをやりだしたり、テレビを見たりします。ひまさえあれば、家で暴れてさわぐので、ケンカになることもありますが、弟の気持ちも考えて行動するようにしていきたいです。また、弟の遊び相手をしてあげるなど、めんどうもきちんとみて弟を大事にしていこうと思います。

私は家族やおじいちゃん、おばあちゃん、他にも たくさんの人に支えられながら生きてきたので、 次は私が家事を手伝ったりして感謝の気持ちを 伝えたいです。中学生になったので、分からない ことは全て教えてもらうのではなく、自分で調べる ことや誰かに言われる前に先を読んだ行動をとる 習慣をつけていきたいです。家族にたよってばか りではなく、新しいことに自ら挑戦し、「できる」を 増やしていきたいです。また、部活動や塾もあり、 小学校のころとはちがう生活になったので今まで 以上に時間を大切に使い、勉強も運動も遊びも 全力で取り組めるようにがんばろうと思います。そ して、困った時にはお父さんやお母さんにアドバ イスをもらったりしていこうと思います。12年間大 事に育ててくれた家族に感謝し、これからも勉強 や運動を一生懸命がんばっていこうと思います。

【ひとこと】

勉強を教えてくれるお父さん。いつも家事を丁寧にこなすお母さん。かわいいけど結果的には勉強の邪魔をしてしまう弟。ほのぼのと温かい家族の姿が想像できます。中学校で新しいことに挑戦する力の源は、家族の自然な支えにあったのではないでしょうか。勉強や部活動、いろんな挑戦に力強く頑張れるパワーをもらいました。

<入 選> 私の将来の夢

私は、小学1年生ぐらいの時から今でもずっとかなえたい「夢」があります。それは、いろんな人からたよってもらえるようなすてきな助産師になるという夢です。

私には自分より年下のいとこがたくさんいて何度もお世話をしたことがあります。生まれたての赤ちゃんは、まだ頭がやわらかいので、うでやひじをうまく使ってだっこしないといけないなど、難しかったり、「生まれたて」で少しこわい事もあるけれど、自分のだっこでねてくれたり、笑ってくれたりすると、とってもうれしくて、小さい子のお世話をしたり、いっしょに遊んだりする時間が私は大好きなので助産師になりたいなと思いました。

また、赤ちゃんが大好きだからという理由だけではなく、私の好きなことやとくいなことをいかしてだれかのやくにたちたいと思い、助産師になりたいとも思いました。しんせきのよっちゃんのおなかが大きい時、坂道など大変そうなときに私が手伝ってあげたりすると、

「ありがとう。やっぱり助産師にむいてる。」と言ってもらい、とってもうれしかった事もありました。また、よっちゃんが、子どもを産む時の話を聞くと、助産師の人が、赤ちゃんが産まれてきてからの話を分かりやすく説明してくれたり、なかなか産まれてこなかったり、不安だったりした時も、やさしく声をかけてくれて、助産師の人にはとっても助かったと言っていて、私もだれかのたすけになるような助産師になりたいとあらためて思いました。

ほかにも、よっちゃんのおみまいに行った時、助産師の人にどうしたら助産師になれるかなどいろんな話を聞くと、助産師になるには、勉強をたくさんしなければいけないということを聞いたので、今からもにがてな授業もしっかりがんばりたいと思いました。

そのほかにも、私は注射を見るのもされるのもこわいです。でも、助産師になるには、看護師のめんきょも取らなければいけないし、看護師は注

彦根市立南中学校 | 年 野瀬 満月

射ができるようにならないといけません。私は注射がきらいなので、予防接種を受けるのもひと苦労です。ごほうびがないとがんばれません。そんな私だからこそ、同じ注射ぎらいの人の気持ちによりそえると思うので、まずは私が中学生のうちに注射ぎらいをこくふくしたいです。

また、私が気になっていることの一つに、少子 化問題があります。私は、3人兄弟なのですが、 けんかもするけど兄弟がいてよかったなと思いま す。お母さんやおじいちゃん達もにぎやかで楽し いと言っています。最近は、2人兄弟や1人っ子が 多いと新聞で読みました。子どもを育てることは、 お金もかかるし大変なことだと思うけど、私は兄 弟がたくさんいるほうが楽しいと思うので、私が 助産師になった時は、そんな事も伝えていったり、 子育てに大変なお母さんをサポートしていくこと で、少子化対策にこうけんできたらいいなと思い ます。

私の将来の夢をかなえるためには、とてもたくさんの過程があるけれど、今できることを一つひとつ行動に移していくことで、私の夢はかなうと思います。1年生の時からの夢を実現できるように、苦手なことにもチャレンジしていきたいです。そして、一人前の助産師になって、たくさんの赤ちゃんの誕生にたずさわりたいです。



【ひとこと】

生命の誕生を支える助産師になりたいという将来の夢。小学校からずっと描き続けた夢ですね。明確な夢を持っているから、そのために何をするべきなのかがわかり、夢をかなえるのが楽しみになりますね。頑張れと応援したくなる作文です。

<入 選> ふるさとを応援する力

「かけっ子、とびっ子、元気っ子―」この聞き慣れたお店のテーマソングを耳にした瞬間、私と母は顔を見合わせ、思わず店内を見渡した。いつものスーパー、いつものメロディー、いつものフレーズ、それなのにいつもと全然違う。もしかして、いやまさか、と思い、期待と興奮でドキドキしながら、急いでスマホで検索をした。

そのまさかだった。歌っていたのは、滋賀県が 誇るアーティスト西川貴教さんだった。

県内最大手スーパーの創業65周年記念でコラボが実現したらしい。彦根市民にとってこんなに嬉しいことはない。私と母もテンションが上がった。なぜなら、西川さんの滋賀を推してくれる姿の大ファンだからだ。母が若い時代から大人気の歌手でありながら、東京や大阪などの都会出身と偽らず、数々の番組で滋賀出身を全面に出して下さってきたそうだ。

西川さんは滋賀の偉人の一人だと私は思っている。西川さんといえばイナズマロックフェスだ。イベントを県内で開催し、地域を盛り上げ、その売り上げの一部を外来魚の駆除や水草の除去のために寄付して下さっている。2008年から滋賀ふるさと観光大使を務められ、2020年には文化功労賞を受賞され、名実ともに滋賀のスーパースターだ。

有名人の力はすごい。最近ではテレビだけでなく、ユーチューブやインスタグラムなどで拡散する力をもつ人たちをインフルエンサーと呼ぶ。彼らの影響力は凄まじい。では、どうすれば興味をもってもらえるだろうか。また、自分たちに出来ることはないだろうか。

まず、私たち自らが魅力ある県であることを再確認し、自分たちで発信していくことだ。次に、魅力ある県であり続けることだ。

私が生まれ育った彦根には国宝彦根城があり、 人気のゆるキャラひこにゃんがいる。琵琶湖のパ ワースポット竹生島クルーズもできるし、評判のバ ームクーヘン店もある。

彦根市立東中学校 2年 内藤 凜乃

私たち彦根の子どもは幼稚園の遠足で彦根城に登って、ひこにゃんと記念撮影をする。小学校では、「うみのこ」に乗って、琵琶湖の雄大さを知る。私の学年はコロナで修学旅行がなくなってしまったが、彦根の町を散策したり、屋形船や人力車に乗せてもらって、自分の住む町の魅力を改めて発見する機会になった。私たちは楽しみながら地域の魅力を体験させてもらった。今度は私たちが恩返しをする番だ。そこで、本気で楽しんでいる様子を知ってもらえば何よりのピーアールになるはずだ。

そして、全国の小・中学校が修学旅行に選んでくれて素敵な思い出ができたら、きっと大人になってもまた来てくれる。その時にやっぱり良い所だと感じてもらうように、素敵な町であり続けることも重要だ。町全体が綺麗であることや観光客が困らないよう案内板が充実した町であることが必要だ。私も得意な英語をもっと生かして、外国の方にガイドができるようになりたい。和やかな雰囲気が町全体に広がるよう市民が意識して魅力ある町づくりに取り組めば、インフルエンサーも放ってはおかないだろう。

彦根の次は長浜、南へ近江八幡と足を運んでもらって、夏は高島でグランピング、冬はマキノでスキーを楽しんでもらえば、滋賀全体の賑わいにつながると思う。だから、市民一人一人がこの町を、県民一人一人がこの県を創る力であることをみんなに伝えたい。

最後に、私の尊敬する西川さんは彦根市生まれ。ぜひ城まつりパレードでは井伊直政公になって、彦根城を世界遺産へと声高らかに叫んで頂きたい。

【ひとこと】 滋賀県出身の歌手、西川貴教さんは滋賀の魅力を発信し、応援してくださっています。西川さんの影響力は大きく、地域を大いに盛り上げています。 彦根城、ひこにゃん、「うみのこ」・・・まず私たちが滋賀の魅力を再認識し、魅力あるまちづくりに取り組む方法を考えてくれます。ふるさとへの思いの輪が広がっていくといいですね。

<入 選> 誇りある琵琶湖にするために

彦根市立西中学校 2年 榎本 結香

私が琵琶湖について書こうと思った理由は2つあります。Iつ目は、私が小学校5年生のフローティングスクールで船に乗った時、琵琶湖の汚さに驚いたからです。琵琶湖はごみ箱ではないのに、色々な場所にビニール袋などのごみが落ちていました。2つ目は、ボランティア活動として清掃活動に参加した時のことです。ごみは、毎年減っている感じがせず、むしろ増えている気がしました。拾っても拾ってもごみが無くならずにいくつものごみ袋がパンパンになったのを覚えています。このような経験をして、私は日本一大きい湖がこんなに汚くていいのかと思い、ごみを減らすためにどんなことができるのかを考えました。

まず、琵琶湖の現状について調べてみました。 滋賀県庁の調査によると、湖底ごみのうち、プラスチックごみの割合は体積比で74.5%となっており、プラスチックごみが多いと分かっています。 清掃活動の時に洗濯バサミやビニール袋が落ちている印象があるので、ポイ捨て以外にも風で飛ばされてしまったなどの原因があるのではないかと思いました。他にも、富栄養化や魚についての問題もあるそうです。例えば、外来種が在来種や固有種を食べてしまったり、富栄養化によって水質が変化したり、魚の生息場所や産卵場所が失われたり、状況が悪化してしまうことによって、琵琶湖にしか生息しないビワコオオナマズなどの16種しかいない固有種や在来種の数が減少してしまっているようです。

私は琵琶湖の現状について知り、もっと固有種の大切さをみんなに知ってもらって、固有種の住みやすい環境を作ることで、固有種を外来種から守りたいと思いました。また、ポイ捨てを減らしてきれいな琵琶湖をみんなで作っていきたいと思いました。そして、琵琶湖だけでしか見られない固有種を増やし、きれいな湖を作ることによって、今よりももっと多くの人々に琵琶湖でしか味わえないよさや楽しさ、すごさを伝えたいと思いました。琵琶湖のよさを伝え、興味がある人を一人でも増

やして観光客を増やし、滋賀県の観光業も活発 にしていきたいと思いました。

琵琶湖をきれいにしていくためにできることを 3つ考えました。1つ目は、地域で集まる清掃活 動に力をいれていくことです。地域で清掃活動を 行うことによって、琵琶湖がきれいになるだけで なく、多くの地域の人とコミュニケーションをとる 機会が増やせると考えます。そうすることで、地域 内での絆をより深めることができるようになり、滋 賀県がもっと住みやすく活気ある街になるのでは ないかと思いました。地域で集まることによって、 「友達がしていたし、やってみようかな。」と思い、 少しでも多くの人が参加してくれるのではないか と思いました。2つ目は、ごみ箱をもっと色々な場 所に設置するということです。ポイ捨ては、捨てる ところが近くないために捨ててしまっている人が ほとんどだと思うので、ごみ箱の数を増やすこと でポイ捨てを減らせると思いました。ごみ箱の管 理はどうするのかなど課題はありますが、自治体 や地域住民、私達学生が協力することで、解決し ていくことができるのではないかと考えています。 3つ目は、清掃活動の参加やごみ箱の回収量に 応じて、ポイントを渡して滋賀県の特産品をプレ ゼントすることで、滋賀県のよさをアピールし、清 掃活動のやる気をあげるということです。やる気 のある人が増えれば、どんどんごみを減らして琵 琶湖をきれいにしていけると思いました。

私は、これからも積極的に清掃活動などのボランティア活動に参加して、きれいで魚も居心地がよく、私たちも住みやすい琵琶湖にしていくことで、たくさんある滋賀の良さを色々な人に知ってもらいたいと思いました。

【ひとこと】 日本一大きい湖のすぐそばに住む私たちですが、琵琶湖の現状について意識しているでしょうか。環境が悪化する中、琵琶湖の固有種や在来種を守るため、きれいな琵琶湖にするために、私たちは何か行動を起こさないといけないと考えさせられました。そのため筆者の考えたアイディアはどうでしょうか。

<入 選> 命の尊さ

彦根市立東中学校 3年 大内 斗翔

「なぜ、人を殺す。どうして。お願いだからもうやめてくれ。」

この言葉を苦しそうに発した | 人のユーチューバーの言葉に強く心をひかれました。

僕はとある日、いつものようにその人の動画投稿を待っていました。その人はいつもの明るく元気な様子はありませんでした。その日の動画内容はウクライナとロシアの戦争のことでした。その人はウクライナが母国でほぼ毎日その人の父を通して現地の状況を発信しています。彼の動画からは本気でウクライナを愛する気持ちがよく伝わってきます。彼は本当に愛していて、彼の友達や近所の人たちを失った悲しみ、辛さ、ロシアを憎む気持ちは、何年経っても消えず、被害者遺族が負った心の傷はきっと、一生癒えることはないだろうと彼の動画を見てきたなかで深く実感しました。

僕は、彼の動画やニュースを見て、「命とはな んだろう」と思い始めました。命は目に見えません。 しかし、僕たちが今生きていて、いつかわからな いけど死ぬ、という決まりが命には存在するもの だと教えてくれます。しかし、僕たちは命があり、生 きていることが当たり前だと過剰に信じすぎてい るのではないかと思いました。人は必ず死にます。 だけどいつ死ぬのか、どうやって死ぬのかは誰に も分かりません。しかし、命は突然、一瞬で無くな ってしまうことがあります。残るのは死体だけで、 命は見えません。もし、そんなことが自分の身の 回りに起きたら、残された人間はどうなるのでしょ うか。大切な人との思い出が頭を巡り、これから 作るはずだった未来の思い出は無くなってしまう。 辛い日々を憎む毎日はとても悲しいです。自分も 大切な家族も友達も生きているのは、当たり前で はないのだと僕は彼の動画を通じて学ぶことが できました。

僕はそれから、命を大切にして生きる努力をしようと思いました。一日、一日を大切にし、その日にしかできないことを一生懸命行うことを心がけました。そして、相手を大切にしようという気持ち

が強くなりました。彼の話によるとロシアは、「親 ロシア派住民がウクライナから独立することやウ クライナのNATO加盟をそしするため」と言ってい たそうです。国の安全を守るためといっても、見ず 知らずのウクライナ国民を傷つけ、命までも奪う 行為は許せないと思います。しかし、命は奪わなく とも、人の体や心を傷つけてしまうことは、僕たち も行ってしまっています。その行為は命を削ってい ると考え、言動に気をつかおうと思いました。相手 の気持ちを少しでもいいから考える心の余裕を 持つことが大切だと感じました。僕の友達に「星 の王子さま」という本が大好きな子がいます。そこ で僕も読んだときにとても印象に残っている言葉 があります。「とても簡単なことだ。ものごとは、心 で見なくてはよく見えない。いちばんたいせつなこ とは目に見えない。」命の大切さについて考えて いるとき、僕はこの言葉が思い浮かびました。目 に見えないけれど絆や愛や時間が命そのものを 表しているのだと思います。それらがあることを確 かめることはできませんが、僕たちがそれらによっ て生きていることは確かです。

今を生きられることに感謝し、見えないものと 向き合うことで、自分も相手も好きになり、大切に しようと思う心が増えれば、少しでも早く戦争が 終わると思います。命の大切さは表せるものでは ありません。しかし、少し意識するだけで大切さに 気づくことができます。生きていることは当たり前 ではありません。それなら僕たちはどう生きていけ ばいいのか、考えることが大切だと考えます。

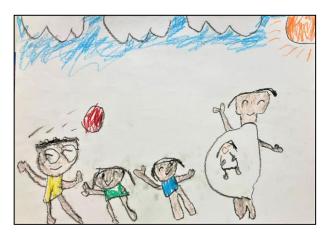
【ひとこと】

戦争で奪われる命は、突然、一瞬で奪われる命。 ウクライナから届いた動画は筆者に訴えかけます。そして、命を大切にして生きる努力をしようと決意します。今を生きられることに感謝し、相手を好きになり大切に思う心が増えること、世界中の人々にこの願いを伝えたいですね。

「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」 (家族ふれあいサンデー推進運動) 絵画・ポスター



外でボールあそび



彦根市立城東小学校 | 年 田部 ひなの

家族で夢の世界へ



彦根市立金城小学校 2年 川瀬 莉心

家族で旅行



彦根市立彦根中学校 2年 相田 紗代



お父さんと一緒に稲刈りしたよ!





彦根市立河瀬小学校 2年 茶木 優輝



彦根市立城東小学校 2年 國枝 奈乃葉

夏の思い出



彦根市立河瀬小学校 3年 井上 皐



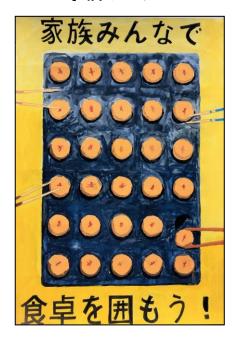
家族のぬくもり



彦根市立城西小学校 5年 竹下 伊志



家族みんなで



彦根市立西中学校 2年 西村 悠花

家族との思い出を大切にしよう



彦根市立彦根中学校 3年 今井 彩絵

「わたしのふるさと」 絵 画

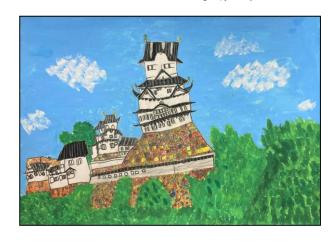
特選

彦根城と桜



彦根市立稲枝西小学校 1年 柴田 にこ

どしんとりっぱな彦根城



彦根市立河瀬小学校 3年 辻 桜祐

緑あふれる荒神山の夏



彦根市立稲枝西小学校 5年 伊藤 二胡

キャッスルロード



彦根市立西中学校 3年 前川 美音



わらっていた らかんさま



彦根市立稲枝西小学校 I年 岡田 祥真

ぼくのふるさと



彦根市立稲枝東小学校 2年 冨江 奏樹

せり川とかもつれっ車



彦根市立佐和山小学校 3年 小川 千咲

我らの街の薬屋さん



彦根市立鳥居本小学校 4年 飯田 大和

彦根の湖岸道路から見る 美しい伊吹山



彦根市立城西小学校 5年 毛利 友哉

私の好きな夏の風景



彦根市立城東小学校 6年 溝口 心結

夏を彩る銀座商店街



彦根市立中央中学校 1年 押谷 悠希

むちん橋から見た犬上川



滋賀県立河瀬中学校 2年 米田 良生有

佳作入賞者一覧

「わたしのふるさと」作文

ぼくのまちの伝とう行事	城南小学校	4年	北川 颯真
わたしのふるさと	鳥居本小学校	5年	榊原 都和
わたしの家族	鳥居本小学校	5年	武田 愛絆
心のふるさと彦根	城東小学校	6年	馬島 楓
城東小学校の伝統「マーチングバンド」	城東小学校	6年	山口 壱彩
ふるさとは彦根市	旭森小学校	6年	大菅 万桜
花の学校	稲枝西小学校	6年	黒澤 まゆ

中学生広場「私の思い 2022」作文

平和について	彦根中学校	2年	白石 夏萌
世界に目を向けることの大切さ	鳥居本中学校	2年	後藤 咲良
ロシアとウクライナの戦争	東中学校	3年	ベル アメリ
あたり前にあふれる優しさ	彦根中学校	3年	中村 天音

「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」(家族ふれあいサンデー推進運動)絵画・ポスター

かぞくときれいなはなび	金城小学校	l 年	北村 紗菜実
みんなで散歩	旭森小学校	年	谷口 愛
ぼくのかぞく	旭森小学校	2年	西川 志優
家族みんなで紙飛行機とばし	金城小学校	4年	富川 遥
グランピングで花火をしたよ	平田小学校	5年	押谷 海璃
家庭は和む場所	彦根中学校	2年	加藤 凜
何気ない会話が固い絆に	県立河瀬中学校	2年	青木 伶杏萊

「わたしのふるさと」絵画

きょだいザリガニとぼくとおとうと	稲枝西小学校	l 年	原 壮太朗
きれいなせり川	城東小学校	3年	前谷 優理子
河瀬の宝 河瀬神社	河瀬小学校	3年	平塚 悠貴
ふるさとの鳥居本駅	鳥居本小学校	3年	小嶋 寧々
彦根城	佐和山小学校	4年	川合 悠那
ぼくのふるさと	鳥居本小学校	5年	榊原 都和
彦根城	河瀬小学校	6年	岡野 奏汰
荒神山の頂上からの風景	中央中学校	l 年	市橋 なな実
ダブルレインボー	中央中学校	l 年	北川 愛唯
彦根城〝若葉の頃"	彦根中学校	2年	谷 颯太

審查員紹介

審査は次の方々にお願いしました。(敬称略)

「わたしのふるさと」作文

元中学校長 白石 晴夫

彦根市青少年育成市民会議会長 吉田 徳一郎

元小学校長 藤井 純子 彦根市少年センター所長

森 貞以子

中学生広場「私の思い 2022」作文

元中学校長 白石 晴夫

彦根市青少年育成市民会議会長 吉田 徳一郎

元中学校教諭 尾田 弘美

彦根市少年センター所長

森 貞以子

「豊かな心をはぐくむ家庭づくり」 (家族ふれあいサンデー推進運動) 絵画・ポスター

元小学校長 西田 吉雄 彦根市青少年育成市民会議会長 吉田 徳一郎

元小学校長 小野 淳

彦根市少年センター所長

森 貞以子

「わたしのふるさと」絵画

西田 吉雄(中学生の部) 元小学校長

彦根市青少年育成市民会議会長 吉田 徳一郎

元小学校長 小野 淳(小学生の部)

彦根市少年センター所長

森 貞以子

★★ あとがき ★★

今年度の入賞作品集を刊行するはこびとなりました。

彦根市内の小学生・中学生の皆さんより作文、絵画、ポスターに多数の応募をしていただき、感 謝申し上げます。

紙面の都合で、特選・入選作品のみの収録となりましたが、今年度も審査員の藤井先生、尾田先 生にお願いして、作文に短評を添えていただきました。

多くの方々にご覧いただけるよう願っております。